

이탈리아의 레지오·에미리아 교육과特殊教育 Reggio Emilia Approach in Italy and Special Education

金美淑*

目 次

I.はじめに	IV. 레지오의 프로젝트授業から見直した 特殊教育の教育過程
II. 레지오의教育思想による特殊教育の基本原 理	4.1 레지오의 프로젝트授業
2.1 레지오教育の教育思想にある価値観	4.2 特殊教育の教育過程
2.2 레지오教育の基本原 理	V. 레지오의多媒体循環活動を通した特殊 教育の 媒体支援の方法
2.3 레지오教育の基本原 理から提示した特殊 教育の基本原 理	5.1 레지오教育の多媒体循環活動
III. 레지오의兒童觀および教師觀から見直した特殊 教育の對象人觀および教師觀	5.2 特殊教育の媒体支援の方法
3.1 레지오教育の兒童觀	VI. おわりに
3.2 레지오教育の教師觀	参考文献
3.3 特殊教育の對象人觀および教師觀	Abstract

국문 요약: 특수교육은 최근 30년 동안 구조적으로 분리교육이 통합교육으로, 또 통합교육이 완전통합으로 이동해 왔다. 이러한 변화의 내면에는 어떠한 인간도 차별화의 대상이 되지 않고 인간의 존엄성이 중시되며, 모든 인간은 더불어 살아야 한다는 의미가 포함되어 있다.

이러한 특수교육의 변화는 사회과학 패러다임 이동에서 연유하였고, 사회과학 패러다임의 변화는 인류사회의 문제를 해결하는 틀에서 도출된 것이라고 할 수 있다. 따라서 패러다임의 이동으로 인하여 교육제도는 열린교육으로, 그 운영도 질적 운영 체제로 바꾸게 하였다. 이는 특수교육에서도 전통적인 기능주의적 입장에서 해석주의, 더 나아가 인간주의로 이동하게 하였다. 다시 말하자면 심신에 어떠한 문제를 가진 모든 사람들이 일반학교에서 교육을 받게 함은 물론 개개인의 잠재능력을 최대한으로 이끌어 내어주는 교육적 지원의 중요성을 강조하게 된 것이다.

따라서 본 연구에서는 과거 특수교육의 현장적 반성을 토대로하여 특수교육의 대상이 되는 모든 사람들에게 적절한 지원이 이루어 질 수 있는 교육적 대안을 이탈리아의 레지오 에밀리아 교육에서 발견하고자 하였다. 이탈리아의 아주 작은 마을에서 시작된 레지오 에밀리아 교육은 지역중심의 운영체제로 교육자, 어린이, 부모, 그리고 지역사회 간의 활발한 상호작용과 의사소통의 촉진을 추구하며 발전을 거듭하였다. 이렇게 끊임없는 반성과 거듭남을 반복하던 레지오 에밀리아 교육은 1991년 뉴스위크지에서 세계

* 白石大學校 師範學部 特殊教育科 教授(katakim@bu.ac.kr).

10대 교육으로 선정된 이후 그 가치와 효과가 계속되어 지고 있다.

레지오 에밀리아 교육의 특징으로 교육사상, 즉 가치관, 아동관 및 교사관, 교육과정을 대신하는 프로젝트수업방법, 다양한 매체의 순환활동 등을 들 수 있다. 레지오 에밀리아 교육이 지향하는 교육사상, 즉 가치관에는 주관성의 가치, 다양성의 가치, 참여의 가치, 민주주의의 가치, 학습의 가치, 교육과정에서의 놀이·재미·느낌의 가치 등이 포함된다. 그리고 레지오 에밀리아의 교육에서 아동은 유능하며 권리를 가진 어린이로서, 교사는 아동의 말에 귀를 기울이며 존중하는 사람으로 정의되며, 교육과정을 대신하는 프로젝트 수업은 확실하지 않은 사고가 관계의 과정 안에서 타인들의 사고에 의해 완성되도록 한다. 이러한 특징에 교육적 선택과 조직 사이의 구조적 조화, 호감이 가는 교육기관 구성, 상호관계에 기초를 둔 교육, 관계와 학습, 의사소통의 확대, 성공적인 결연이라는 기본원리를 세워 충실히 이행하고 있다. 레지오 에밀리아 교육은 전통적으로 획일적이고 권위주의적이었던 학교 교육에서 그 원인을 발견하고 교육이 나아갈 방향을 좀 더 구체적이면서 적극적인 대안을 찾으려고 애를 썼던 교육이다. 이 교육에서는 교육대상자 개개인의 고유성과 다양성이 인정되는 것은 물론 그 가치를 존중하며 교사와 학생이 모두 행복한 교육을 지향하려 하였다. 이러한 점에서 특수교육의 현교육적 상황의 문제점들을 생각해 볼 때 레지오 에밀리아 교육이 해결하려 했던 많은 부분에서 일치되어지고, 이에 레지오 에밀리아에서 신중하고 세심히 제시한 교육방법들이 심·신의 어떠한 문제를 가진 사람들에게 매우 유용할 것이라고 판단하였다. 이런 판단에 근거하여 레지오 에밀리아의 교육사상에서 특수교육의 기본원리를 제시하고, 레지오 에밀리아의 아동관과 교사관에서 수정된 특수교육의 대상인과 교사관을 주장하며, 레지오 에밀리아의 교육에서 교육과정을 대신하는 프로젝트 수업에서 특수교육의 교육과정에 대한 반성을 하며, 레지오 에밀리아의 교육에서 사고의 확장을 위하여 활용하는 다매체 순환활동을 특수교육의 매체지원방법으로 적용하였을 때의 효과를 검토하였다.

본 연구의 이러한 검토는 20여 년 전 우리나라에서 레지오 에밀리아 교육에 대한 관심을 갖기 시작한 유아교육보다는 다소 늦지만 이미 유아교육과 아동미술교육에서 많은 효과가 검증되고 있어 특수교육의 현장적 문제를 해결하는 중요한 대안을 제시할 수 있는 계기가 될 것이다.

키워드: 레지오 에밀리아교육, 교육관, 프로젝트수업, 다매체 순환활동, 특수교육, 완전통합.

I. はじめに

最近、韓国の特殊教育は分離教育から統合教育、また完全統合教育に変わった。このような変化にはどんな人間も差別の対象にならずに人間の尊厳性が重視され、すべての人間が共に生きていかなければならないという意味を含んでいる。特殊教育の変化は社会科学のパラダイムのシフトによるものである。社会科学のパラダイムは人類社会の問題を解決するかたちから導出したと言える。また、後期産業革命期の1970年以降の客観主義から主観主義にパラダイムのシフトはミクロ的および保守的の社会学からマクロ的および進歩的な社会学に変化をもたらした（金正権、1997）。このような変化は量的なものから質的なものに変化したことはもちろん結果主義から過程主義に変化したこと、または競争体系から協力体系に移動したことを意味する。

このようなパラダイムのシフトは教育の制度および運営にも質的な変化をもたらした。これは特殊教育の現場で伝統的な機能主義的の立場から解析主義に、もっと更に人間中心主義に移動させたことである。また、こんな変化は心身のなんらかの問題をもつ人間みんなが一般学校で教育を受ける機会を与えることと個々人の潜在能力を最大に導き出させる適切な教育の支援をもとめるなどの教育現場の急速な変化をもたらすと言える。

心身のなんらかの問題は潜在してある自信の能力を発揮できないことではなく、彼らが直面している適用の現場で方法を異にすればいくらかでも潜在能力を発揮できると考える。そのため教育の対象に適切な学習の目標や教授の戦略の計画はとても重要な位置を占める。このような観点で心身のなんらかの問題をもつ者に対する教育的で多様な支援に画一的かつ権威主義的な方法はそれ以上いい方法ではないからその対案を模索しなければならない状況である。

以上のようなことから学校の教育の危機に関する対案として教育の実際へ重要な価値を持って始まったイタリアのレジオ・エミリア（Reggio Emilia、以下からレジオと略する）教育は心身のなんらかの問題をもつ者に対する教育の方法に対案として提示することができる。レジオ教育は潜在能力が優れた児童観を基として個々児童の知的、情緒的、社会的、そして道徳的の潜在能力を案内することはもちろん、このような潜在能力を啓発し、発現させる教育である。それで、レジオ教育の方法は学校の教育の全課程を厳格な記録の作業（Documentation）を通して可視化させて具体的に見せてあげて世界の教育者たちの関心を引き集めた（呉終淑、2003）。

レジオ教育の基本原理には教育的な選択と組織の間の構造的な造化、好感のある教育の機関、相互の関係をもとにした教育、関係と学習、コミュニケーションの拡大、成功的な結縁などが含まれている。こんな教育の基本原理は心身のなんらかの問題をもつ者に対する教育を支援する時も適用しなければならないと判断する。これは心身のなんらかの問題をもつ者に対する今までの特殊教育と異なる社会的な構成主義と総体主義的な観点からまた考えなおさなければならないといった金美淑（2007）の主張と多くの部分が一致する。それゆえに心身のなんらかの問題をもつ個々人が彼らの脈絡に基礎して彼らのすべての発達を総体的に支援するべきである。

したがって、この研究は心身のなんらかの問題をもつ者に対して今までの特殊教育の問題点を解決してくれる代案をレジオ教育の多様な観点を考察することによってその実用性と必要性を明らかにすることを目的にする。

この研究の具体的な目的はつぎのようである。

一、レジオ教育の教育思想から特殊教育の教育的側面を改めて考えることによって特殊教育の基本原則を考え直す。

二、レジオ教育の児童観および教師観から特殊教育の対象になる心身のなんらかの問題をもつ人間観と教育的な支援の中心にいる教師観をみなおす。

三、レジオ教育の教育過程を代用するプロジェクト授業から特殊教育の教育過程をみなおす。

四、レジオ教育から始まった多媒体循環活動を特殊教育の媒体支援の方法に持ち込む必要性を明らかにする。

II. 레ジオ의 교육思想による特殊教育의 基本原理

レジオ教育は多くの学者達の教育観と色々な学校を参考したといえる。それでレジオ教育の特徴を明らかにするためにRinaldiは価値観を教育思想として整理しておいたものを提示した。それで、その価値観から出したレジオ教育の基本原則を提示して特殊教育の基本原則をふたたび定立してみる。

2.1 레ジオ教育의 교육思想にある 価値観

レジオ教育の教育思想に生命を吹き入れた価値観では主観性の価値、多様性の価値、参与の価値、民主主義の価値、学習の価値、遊び・楽しみ・感性・感じの価値などがふくまれている。Rinaldiによって整理した、これらの価値観の説明を簡単に紹介すればつぎのようである(呉終淑、2009)。

主観性の価値は全体性との統合を指向する。主観性は個々人が持っている可能性であり、個別的な主体の形成に相互関連は重要なことである。各の個人は特定な脈絡また文化の中から作られる固有な性質がある。この固有性は相異性の価値と関連している。レジオ教育の主観性は学校たちの日常生活の戦略、たとえば、観察、記録の作業、小

グループの作業、空間の組織、ミニアトリエの出現などで表わす。

多様性の価値は主観性の価値と関連しており、人間はみんな違うことから出発する。これはもっとも簡単なようにみえるが、事実はそうではない。多様性を扱うのはとっても難しいことだし、もっとも使命感と能力が必要なものである。そして多様性の価値には多様な観点の間に合意を通じた統合が必要である。

参与の価値は多様性の価値の定義で発見することができて、民主主義の価値は参与の価値で具体化することができる。レジオ教育では家族が多く参与して手伝うことができる。そのために学校の教育の目的を明らかにすることの意味と参与の可能性を高めるためのゆたかな空間と無制限の感覚を提供する必要がある。このような参与はレジオ教育で重要な論点である。なぜならば学校がどんな状況で社会に近く、かつ結び付けるかをいつでも記憶しなければならないためである。

学習の価値は教育その自体である。すなわち、学習は新しい経路を探すように引っ張る関係的な場所の意味である。また、学習は以前にはない新しい発見である。それで教育するのは学習するとともに改善し、学習では教える人と学ぶ人との絶え間がない関係的な相互の交換を含んでいる。

レジオ教育の過程で遊び・楽しみ・感性・感じの価値は重要なことである。すなわち学ぶ人と学習することの間に暖かい関係がもっとも必要なことである。感動と好奇心と面白さが豊かな関係のなかで個人と彼らの脈絡のあいだの統合を成す学習は力をもつことになる。

以上のように、レジオ教育の教育思想にある価値観は人間が彼らの生に対して熱望する以上なことである。このような価値たちは人間たちの判断、行動、そして社会的な人たちを形成する参照の点で作用すると云えられている(呉終淑、2003)。

教育は個々人がこの世の中で生きていくための

いろいろなことを教えてくれることで個々人の生に生命を吹き込む作業だと言える。それだから世の中の人間全部は教育の対象になり、個人の固有性を考慮した適切な教育的な支援が必ず必要である。特に、心身のなんらかの問題をもつ人間に対しては彼らが持っている問題を固有性と相異性という観点からみてみると、もっと注意深く観察することや細かなところづきの教育的な配慮が切実に必要なことである。

2.2 レジオ教育の基本原則

レジオ教育の中心的な価値観に基づいた基本原則は教育をする時にどんなことに注意をはらって教育させるかを教えてくれる。その基本原則はGandiniとMalaguzziの談論から六に要約することができる。それは教育的な選択と組織の間に構造的な調和、好感を与える教育機関を創造すること、相互の関係に基づいた教育、関係と学習、コミュニケーションの拡大、成功的な結縁である(金憲陣、呉文子、2006)。

その具体的な内容はEdwards、Gandini、Forman(1993)によって編著した「Reggio Emiliaの幼児教育」という本を金憲陣、呉文子(2006)によって翻訳されたもののなかからレジオ教育の基本原則の部分を検討することができる。その内容はつぎのようである。

教育的な選択と組織の間の構造的な調和には教育機関が絶え間なく自分で適用する構造物として教育の対象者たちの特別な権利の所有者および受恵者で受用しなければならない。そのために私たちは引き続いて促す教育機関として次第の生、発達の類型、機関をそろえた市まで拡大することを行うという意味が含められる能力をしなければならない。レジオ教育をする機関の環境は最大の動き、協力、相互の作用を誘導することができる教育の計画と働くのに必要な組織と環境と統合する試みとして教育の機関の中にいるみんなが楽な感

じを感じるのが大切なことであると言っている。それゆえに個々に特徴があるためにアイデアと行動を誘発させて相互に交換できる役割、場所、機能を結合する環境を強調する。それらは生動と暖かさをあげるし、信じでもいい世の中で生きていると言う感じを感じさせる協同と相互の作用ができる環境を作ることになる。

相互の関係に基づいた教育を強調するレジオ教育では子供、教師、家族、全部をたいせつに考えている。それで彼らがなかよく過ごす方法、子供・教師・家族の間の関係を強化させる方法、教育の問題に多くの関心を置くようにする方法、参与と研究を活性化させる方法を具体化することなどを強調する。そのようにするのは子供・教師・家族の全部を団結させて共に寄与することを知らることがもっとも効果的な方法である。また、それは協同するのが肯定的な感じがいい結果をもたらすということは関係と参与に基づいた教育を遂げることに寄与する。実際にコミュニケーションとであう構造を維持し、また再創造しなければならない。相互の交流的にコミュニケーションができるようになってから相互の適用を激励し、相互の感情と感じを尊重することになる。

能動的な教育の過程では関係と学習が同時に起こるとMalaguzzi(1993)は主張した。彼は関係と学習は学習者の期待と技術、成人が専門家として有能であること、そしてもっとも包括的な意味での教育の過程を通して共に完成することであるという。すなわち、学習者は先生が教えてあげたことを自動的に学ぶのではなく提供した資源と自分たちの活動を通して自ら学ぶということの意味する。これで多くの学習者に挑戦する状況を提供し、そして彼らを観察すれば学習者は自ら理解することをわかるようになる。

このように実際には相互の作用の両方性はたいへん重要な原理である。だから成人は学習者との相互に作用する方法によって学習者の動機を誘発

させることと学習者が学ぶことに影響を及ぼすのではないがという考えをするかも知れない。それゆえに学習者のための環境は認知の領域との関係と情緒の領域がお互いに結合をなすように構成しなければならない。また、発達と人間の間、いろんな象徴的な言語たちの間、思考と行動の間、個人と人間の間、自律性のあいだの連関性を持つことはもちろん、状況、コミュニケーションの過程、学習者同士の間、成人と学習者との相互作用のネットワークの構築も重要である。

所属感と自信感を持つ学習者はいろんな活動に積極的に参与できて、すべての水準と状況で学習者のコミュニケーションのネットワークを拡大させて言語の意味を悟りや熟達させることができる。多様なコミュニケーションによって個人と集団の自律性を増進させるのを発見し、また集団は対話と意見の交換を通して集団しだいの思考、コミュニケーションの行動の様式が生じる。

成功的な結縁のために教師たちは多くの調節をしなければならない。たとえば教師たちは自信たちが確実に考えていることももう一度考えなおして疑問を提起する習慣と感性を育てること、親が望む時には会ってあげること、学習者に対する最新の情報を知らせるために研究する姿勢を持つこと、親の役割に対して十分な評価をすること、話し聞くこと、親から学ぶ技術を習得することなどをすべて具備するのは大切なことである。このようなすべての要求に反応するのは教師が自分の教えることに疑問を持つことはもちろん教師が多くの仕事を共にやっていくことを親と学習者が知ることも重要である。

以上のようにレジオ教育の基本原理解はレジオ教育の価値観に基づいて細かい部分にも細心な配慮をしながら教育的な支援が行う時に最善をしている。その能力を表す基本原理解のかなり多くの部分が心身のなんらかの問題をもつ者に対しても必要なものである。それで、レジオ教育の価値観に基

づいたレジオ教育の基本原理解から心身のなんらかの問題をもつ者のための教育の基本原理解を明らかにすることは心身のなんらかの問題をもつ者の教育の実際にとっても大切なことで作用するのはもちろん、今までの特殊教育の問題を解決する代案を模索する機会をつくることであると考えている。

2.3 레ジオ教育の基本原理解から提示した特殊教育の基本原理解

レジオ教育は主観性の価値、多様性の価値、参与の価値、民主主義の価値、学習の価値、遊び・楽しみ・感性・感じの価値という価値観に基づいて教育的な選択と組織の間の構造的な造化、好感を与える教育機関を創造すること、相互の関係に基づいた教育、関係と学習、コミュニケーションの拡大、成功的な結縁という基本原理解を提示した。それ全部を特殊教育の立場から考えると共感することができる。その共感点を詳しく取り調べる。

まず、教育的な選択と組織の間の構造的な造化は教育の対象者たちの特別な権利で所有者ではもちろん、受患者で認定することが基本であるといっている。それは心身のなんらかの問題をもつ者を対象にする特殊教育もかれらの特別な権利で所有者と受患者で認定しなければならないことを主張できる。

今まで特殊教育の対象者は多くの部分で特別な権利を保障することがなかなか難しいことであったと言える。現在も完全統合教育に変わった韓国の特殊教育は多様な問題を持ちながら一般学校から特殊学校に再び戻る人が多い状況である。これは一般学校では特殊教育の対象者が特別な権利の所有者、および受患者でいままでも全く認定しなかったことを証明することである。

相互の関係に基づいた教育を強調するレジオ教育では子供、教師、家族、全部を重要にしているが、特殊教育でも子供、教師、家族、全部の役割

が重要である。それでアメリカでは心身のなんらかの問題をもつ者に対する教育の計画を立つに必ず親と教育の対象者を含めて決定するように法律で保障している。しかしわが国では心身のなんらかの問題をもつ者に対する教育の計画を立つことに親と教育の対象者を含めることがなかなかじょうできないようである。

そのために心身のなんらかの問題をもつ者に対する教育の実際にかねらの潜在能力を最大に導き出させることができなかったり、また教育させたことを一般化することができないことが多い状況である。それは教師が親と教育の対象者の参加させる方法と重要性をよくしらないで教育の計画と過程に積極的に参加させなかったと判断する。

能動的な教育の過程では関係と学習が同時に起こるというレジオ教育は学習者が出会うすべてのことと直接的に連結することを強調する。それは過去の特殊教育が機能的なことを反省して多様で新しい教育方法の適用を望むところでレジオ教育が強調する関係と学習との関連を考えなければならない。

以上のようなことから特殊教育の基本原則もレジオ教育の基本原則のように確実に立ち、かつ実践する必要があると思う。特殊教育の基本原則に教育的な選択と組織の間の構造的な造化、好感を与える教育機関を創造すること、相互の関係に基づいた教育、関係と学習、コミュニケーションの拡大、成功的な結縁等のレジオ教育の基本原則を含めるのは当然なことである。それは心身のなんらかの問題をもつ者の要求を満足させるのはもちろん教師の悩みを解決してあげると判断する。

Ⅲ. レジオの児童観および教師観から見直した特殊教育の対象人観および教師観

レジオ教育の児童観は潜在力を持つ有能で強い

イメージであり、教師観は研究者としてのイメージである。今までの手動的な児童観と教師観のイメージから能動的な児童観と教師観のイメージに変化することを強調する。

3.1 レジオ教育の児童観

レジオ教育の創始者にあるMalaguzzi (1993)は子供が弱点と限界を持つ人間というよりも飽くなき表現と実現の要求と関連しているすばらしい力と能力を発見できる人間であると主張した。また、彼は子供は能動的に活動することはもちろん考える方法と意志をもって生まれると強調した。すなわち、これは子供が社会化すること、コミュニケーションすること、記憶すること、遡及して行動すること、変形すること、そして理解する方法を学ぶに適合に生まれついたことを意味する。

そして、Rinaldi(1998)は子供を次のような存在として説明した。

『子供は他人に対して深い尊重感を持つのはもちろん葛藤と失手を容認してお互いに関係をつなぎ、熟練に相互作用をする。また、子供は自分の世の中を構成し、世の中によって構成させながら自信を形成していくのも熟練になっている。現実を解説するのに必要な理論を構成することができ、現実を理解するための可能性として仮説と隠喩を構成するにも有能である。子供は自信だけの価値観を持ち、新しいものやことにいつも開いた姿勢を維持しながら結束力のある関係を樹立することにとっても熟練である。子供は未来の所有者であり、建立者である。』

レジオ教育では児童の個人間の差を認定している。本当の教授と学習が生じるために成熟する時間、発達する時間、理解する時間、子供の能力が完全に、ゆっくり、とんでもないように、また引き続いて変わる時間を尊重しなければならない。これは過去の画一的な教育課程を適用して学習者の個人的な準備の状況を考慮しなかったこととは

違う点である。

以上のようにレジオ教育の児童観は一人の人間として尊敬され、長い児童期を過ごす権利、独特さや差別性を尊重うける権利などが保障するために細心な心を使っている。

3.2 レジオ教育の教師観

レジオ教育の教師観はレジオ教育の児童観のように強いイメージである。レジオ教育をする教師には多様な能力が必要である。それは次のようなことである(金憲陣、呉文子、2006)。

一つ、教師は経験を思考に、思考を深思熟考してそれをまた新しい思考と行動に転換できる能力が必要である。

二つ、教師は予測、結果の解析をすることができることはもちろん特に結果を評価するよりも活動が進行している過程を解析することができるのがたいせつであることを記憶しなければならない。

三つ、教師は子供を消費者として考えないで生産者として認識して子供が自分の力で学びできること以外はなんにも教えないことを記憶する。

四つ、教師は子供が成人と教師の行動を見て、どのように考えて理解したのをよく知らなければならない。

五つ、教師は子供と歩調を合わせることや子供がある関係を形成する前に早く判断し話しあえることは危険なことであることを知っておく。

六つ、教師は子供のお話を傾聴する。

七つ、教師は子供に多くの活動と選択の機会の与えるのは頭の活動が活発することを知っておく。

八つ、教師は現場で教育の目標と価値が分離できないことと専門家として個人的な能力はもちろん同僚、親、専門家と協議を通してもっとも意味があることをわからなければならない。

そしてRinaldi(1993)は教師を次のような存在として説明している。

教師は一方的に教える人ではなく、知識と文化を構成する共同者である。すなわち知識と文化の単純な伝達者ではなく、知識の共同の創出者になるためにその役割を修正する。教師は自信の脆弱性と限界性をわかって自信の役割を遂行すべきである。

以上のように、レジオ教育の教師観は子供を一人の人間として尊重し、知識の伝達者ではなく子供と一緒に知識を創出する協力者である。そのためにレジオ教育では自信の専門性を啓発する権利をもつ子供と知識を創出する能動的な教師を要求する。

3.3 特殊教育の対象人観および教師観

レジオ教育の児童観は潜在力を持つ有能で強いイメージであり、またレジオ教育の教師観は子供と一緒に知識を創出する協力者であることを強調している。それにたいして特殊教育の対象人観は限界性をもつ弱者としての考えが強い。そして、特殊教育の教師観は特殊教育の対象人の教育に関するすべてのことを計画し実行する統制者としてのイメージが強い。

このような考えは機能主義による書房的な教育が主となったからである。しかし、それは学習者の思考を抑圧することになる。Gardner(1993)によれば人間は多重知能を持っていると指摘する。多重知能の概念は個人間の差異と個人内の差異を認定するのが基になる。特に心身のなんらかの問題をもつ者が持っている差異と違うことを認めるのは差別するためではなく個人的な特徴として取られるためであることを忘れなければならない。

それだから特殊教育の対象人を教育する時に彼らの弱点より強点に焦点を合わせて潜在能力を最大に発揮するようにするのは大切なことである。すなわち、特殊教育の対象人を書房的な教育の対象で取り上げないで主導的に自分の学習をすることができる能動的な生産者として取り上げるのを

意味する。

以上のような特殊教育の対象人観の变りは教師が教育する姿勢や方法の変化を要求する。IEPと行動修正のような行動主義の思潮による教育の方法は特殊教育で今も主になっている。そのために特殊教育を担当する教師は特殊教育の対象児を統制して調整する者として一方的に教える人である。これは教師が特殊教育の対象人たちの個々人の潜在能力を無視したことはもちろん教師自信の脆弱性と限界性は全く考えてない危険なことである。

それでレジオ教育の教師のように特殊教育の教師も学習者を一人一人を人間として尊重し、知識の伝達者ではなく学習者と一緒に知識を創出する協力者であることを必ず記憶しなければならない。また、特殊教育の教師は特に教育の対象人の発達と学習を取り越すために教授の方法をよく選択するべきである。具体的な教授方法には近接発達領域(the zone of proximal development)のなかで秘計設定(scaffolding)を通した方法である。この教授方法を使う時、教師は力動的な評価による能動的な介入と撤回が適切に成さなければならない。

IV. レジオのプロジェクト授業から見直した特殊教育の教育過程

レジオ教育では教育課程がない。その代わりにプロジェクト (Progettazione)がある。行動主義者たちが選り好みした単元と小単元に計画した教育過程があるがレジオ教育は計画した教育過程を学習が随伴させない教授であるという考えから使わない。その代わりに長・短期プロジェクトを構成する。

4.1 レジオのプロジェクト授業

毎年、長・短期プロジェクトを構成しする。プ

ロジェクトの主題が基本骨格になったプロジェクトは進行中にはなんでもかわるものやことを子供と教師と共に決定する (Malaguzzi, 1993)。プロジェクトを進行する時、教師はある計画によって進行するのではなく子供が進行することを追っていく。プロジェクトの目標も重要であるが、どのように目標に到達するのがもっとも重要である。

プロジェクトは教授—学習の方法ではなく開く思考の方式を意味する言葉である。これは確実ではない思考が関係の過程のなかで他人たちの思考によって完成になるのを意味する (Rinaldi, 1998)。

このような教育課程を代行するプロジェクトの構成と展開する方法を呉終淑 (2009)は次のように八段階で整理した。

一段階、事前研究と予備調査: プロジェクトの暫定的な主題に関して先に多核的に、そして深い探求をする。それによって子供にどんな価値と意味を与えるかを慎重に論議しなければならない。けれども、プロジェクト授業を実践する初期ではプロジェクトの主題に関する多核的な視覚でその価値を見当することがなかなか易しくではない。こんな問題を解決するために必要であるのは協同教授協議である。協同教授協議は専攻がそれぞれ違う多様な背景をもとにその主題の可能性を見当した後で一緒に集まって考えをかわすうちに自然に解決できる。しかし、大部分の教育の現場では同じ専攻に構成しており多様な人的資源が豊富ではない実情である。こんな実情では多核的な水準で意図的に分担して調査する時間を持った後で研究の調査を基にまだ協議してその問題を解決することができるようにする。

二段階、主題の発現: レジオ教育の実践ではプロジェクトの主題を適切に選ぶことである。主題の発現のために次の五つの方法がある。それは、
a、論議することがある童話を選んでそれを読んだ後、子供の解析を聞いてから、b、子供の日常

に教師が耳を傾けて細心に観察して子供が興味をもち主題を捕捉することから、c、子供の日常を観察することが難しい時には教室の中にいろんな興味の領域にレコードやビデオを設置し録音をした後、その記録から、d、教師がいい主題が浮かんだらその主題に関して子供の考えを聞いてみる予備調査から、e、教師によって子供が取り扱ってみてもいい主題を勧誘することから主題を発現する。このように主題の発現の方法は多様であるが一番重要なことはいつも教師が敏感に反応することで日常での子供の興味を捕捉して主題に連結することである。

三段階、主題に関連した経験を交わす：主題が発現したあと主題に関連した子供の自信の経験をお互いに交わす時間を十分に持つのが重要である。子供の経験で主題を解析することや主題に関連した経験を十分に話し合うことで主題が抽象化になるのを予防することができる。

四段階、初めての表現：主題に関連した経験を交わした後にはその主題に対して各者の意味が与えてそれを多様な媒体で表現する。こどもが個人的に楽な媒体を通して先に表現して後、それをまだ画で変えさせるのは子供の難しさを減らすことはもちろん表現が豊富になることである。

五段階、自記の評価：子供が表現するすべての象徴を批評的に読んで検討した後現れたイメージと現れるようにしたイメージの間隔を予測して表現の問題点を探さなければならない。そしてその問題点をどのように解決するのかにかんする表現の戦略を共同に考案してその表現をまた修正する過程をしなければならない。その過程は学習者の自発的な参与と没入する過程を通してなる。

六段階、意味の作り：主題に関連した経験を交わす各個人の経験をお互いに交わす過程で主題に対する個人の解析が現れ、それがすぐ意味になり個人的な意味が与えるようになる。プロジェクト

授業での意味の作る過程は別の個人的な作業で成る意味を作りとは差異がある。プロジェクト授業での意味作りはグループに参加している構成員たちが持っている経験が互いにあるからもっと広い、そして深く拡張した結果である共同のいみである。その意味の作りの過程は構成員たちが満足するまで、そして批評的に読み修正し、修正したことをまた批評的に読み、また修正する循環の過程を経る。

七段階、媒体のかえり：満足するくらい水準の意味の作りがなったら媒体をかわって表現する。子供たちの意味の脈絡での負担は少なくなるようにする。その活動は脈絡のなかで媒体を探索してみればその媒体が自信達の脈絡に有用性と限界性を判断するのにもっとも助けになる。

八段階、展示と発表：プロジェクトの終りは展示会と発表会を開けてプロジェクトの経験を共有する機会をもつことにする。それによって親との交流と紐帯を活発にすることができる。

4.2 特殊教育の教育過程

特殊教育の教育過程は行動主義の思潮によるものである。行動主義者たちが選り好みした単元と小単元に計画した教育過程であり、特に異質的な教育の対象人が集まっている特殊教育の現場ではそれを個人的に計画して構成するのを選り好む。このような教育過程は学習者の個人的な前略を考慮しないことであり、また学習者の思考の拡張を妨害することである。

特にIEP（個別化教育計画）は一人の学習者に対して計画したものでは確実であるが、韓国の現実では忠実に移行しない状況である。そのため行動主義の思潮による教育過程で単元と小単元に計画した教育をしている。またIEPとレジオ教育のプロジェクト授業と比較すればIEPは個人的な状況を調べるために事前研究と予備調査をしてその結果によって個別的な教育の計画を立つがレジオ

教育のプロジェクト授業では主題の発現、主題に関連した経験を交わすこと、自記の評価、意味の作りなどのことを重要な教育の過程でふくまれている。それはプロジェクト授業がもっとも個別的で個人の脈絡のなかで自分の思考の拡張を促進する教育の方法を使っていると判断できる。

それだからレジオ教育のプロジェクト授業はもっとも心身のなんらかの問題をもつ者に適切な教育ではないかと考える。もちろん、心身のなんらかの問題をもつ者の自分なりの特徴はとても特別であるから、コミュニケーションの問題、個人内の差異をよく把握すること、そして学習の速度をよく調節すること等、細心な配慮が必要である。すなわち、特殊教育の教育過程は教師によって計画し調節するより学習者によって計画し調節すべきであり、その時、教師は案内者であり、協力者であることを忘れなければならない。

V. レジオの多媒体循環活動を通じた 特殊教育の媒体支援の方法

多媒体循環活動はレジオ教育の特徴であり、それは多象徴接近法と言う。それは多様な媒体が循環する間に子供の思考が多様な象徴を通して現れるという意味である。

5.1 レジオ教育の多媒体循環活動

子供の思考や感情は多様な媒体を通じた活動で象徴に表現する。象徴を表現する過程で子供の潜在力が発揮し、認知的な成長が起こる。また、象徴達の相互作用によって子供の学習は深くなる。それは考えたことを話して、それをまた画で、また粘土で、身体表現などの循環表現による象徴の活動をするうちに個人の主観的な限界性を越え多様性になる力動的な変化が起こる。

そしてレジオ教育では創意力を重要にしてお

り、その創意力は多様な経験と冒険する機会が与える状況でよく現れると主張する。創意力を現れるようにする経験と冒険は多様な象徴の体系にしたがってその脈絡と領域が規定され、子供は自信達の策略、要求、タイミング、質問などをもってその領域のなかで探検する。したがって、子供は考える時間、自分の力で、または自信の友達と一緒に実験する時間が必要である (Rinaldi, 1998)。

それで、教師たちは子供の象徴の体系に対する輪郭と表現の方法および変化をよく把握しなければならない。同時に教師たちは子供たちの行動やアイデアを組織する彼らの固有な方式、手続き、経路も重要であり、その過程で教師たちは子供たちと一緒に歓喜、興奮、そして成長の経験をする (呉終淑, 2003)。

5.2 特殊教育の媒体支援の方法

特殊教育の媒体支援は具体物として学習者たちの概念の形成のため多く提供している。しかし、その具体物や支援の方法を詳しく取り調べると学習者の脈絡のなかであるもの場合は少なく、教師の仮説によって準備したものばかりであることが多い。また、その提供の方法も学習者の探究の時間はあまりなく、教師によって計画した方法で進行する時が多い状況である。それは、学習者が自分なりの思考の拡張と概念の形成を妨害し、なかなか一般化ができないことになりやすい。

それで特殊教育の媒体支援は学習者の思考の拡張と概念の形成のために学習者の脈絡のなかで選ばれた多様な媒体を提供するべきである。また、多様な媒体を提供する時、学習者が十分に探究する時間を与え、学習者の潜在能力が発揮し、認知的な成長が起こるようにしなければならない。その過程で学習者たちは個人の主観的な限界性を越え多様性になる力動的な変化が起こる。

それだから、循環活動による媒体の支援は特殊

教育の対象者にはもっとも重要である。多様な媒体の支援は自信の策略を立つことができるようにして新しい状況に対して冒険するのを恐れなく、適応するようになると考える。

VI. おわりに

パラダイムの転換を通して特殊教育は過去、機能的な教育から脱皮して社会的な構成主義的教育を強調している。しかし、現社会はとても混沌としていろんな変異たちが複雑に作用しており、唯一な一つのパラダイムによって支配するよりも状況によって多重なパラダイムが相互補完的な関係に置かれたろう。

特別な要求を持って生まれる人もPiagetの認知的な構成主義によれば自信が持っている潜在能力によって一定の発達の順序に発達する。ただ、その能力と速度、内容に差異があるだけである。ま

た、Vygotskyは社会的な脈絡によって発達の水準と可能性をよく把握して案内し、促進すれば特別な要求を持って生まれる人も自分が持っている潜在能力を発揮させることができると主張した。

しかし、特殊教育の現場の教師と専門家は特別な要求を持って生まれる人の能力を過小評価して期待水準を適切に引き上げることができなかったのではないかと反省する必要がある。それは特別な要求を持って生まれる人のいろいろな発達の促進に多くの影響を与える重要な要因である。

このような反省からレジオ教育の潜在力を持つ有能で強いイメージの児童観から心身のなんらかの問題をもつ者を見る観点を変化し、潜在力を持つ発達の可能性を含んでいる有能な人で見直さなければならぬ。それから学習者が創造して、発見する可能性を高めることが教育の窮極的な目的(呉終淑、2007)としたことは心身のなんらかの問題をもつ者にも同じく適用するべきである。

参考文献

- 金美淑(2007), “特殊教育のパラダイムの変化を通じた学校の教育での収容の方案,” 2007特殊教師の美術研修 資料集, 国立現代美術館.
- (Translated in English) Kim, M.S.(2007), “Method of Receptive of School Education through the Change of Special Education in Paradigm,” *2007 Special Teacher of Art Training Material Book*, Korea: National Museum of Contemporary Art.
- 金正権(1997), 完全統合教育と学校の教育の再構造化, ソウル: 図書出版特殊教育.
- (Translated in English) Kim, J.K.(1997), *Full Intergration and Reconstruction of School Education*, Seoul: Special Education Publishing Co..
- 金憲陣・呉文子(2006), *Reggio Emiliaの幼児教育*, ソウル: 正民社.
- (Translated in English) Kim, H.J., M.J. Oh (2006), *The Reggio Emilia Approach to Early Children Education*, Seoul: Jungmin Publishing Co..
- 呉終淑(2003), *Reggio Emiliaの教育思想とその実践に関する研究*, 弘益大学校大学院博士各位論文.
- (Translated in English) Oh, J.S.(2003), *Study on Education Though of the Reggio Emilia Approach and Practice*, Doctoral Dissertation, Hongik University, Seoul.
- 呉終淑(2009), *Reggio Emiliaの教育の理解*, 愛花学校研修資料.
- (Translated in English) Oh, J.S.(2009), *Understanding of Reggio Emilia Approach*, Training Material of Aewha School.
- 呉終淑(2007), “特殊児の発達支援のための多様な媒体を通じた循環活動,” 2007特殊教師の美術研修資料集, 国立現代美術館.
- (Translated in English) Oh, J.S.(2007), “The Cycle Active through Muti-media for Development Service of Special Children,” *2007 Special Teacher of Art Training Material Book*, Korea: National Museum of Contemporary Art.
- Edwards, C., Gandini, L., Forman, G.(1993), *The Hundred Language of Children: The Reggio Emilia Approach to Early Children Education*, Ablex Publishing Corporation.
- Gardner, H.(1993), *Multiple Intelligence: The Theory in Practice*, New York: Wiley.
- Lipsky, D.K.(1997), “School Restructuring and Inclusion: School and Classroom Practices,” Paper Presented to the Seoul International Conference on Disability.
- Malaguzzi, L.(1993), *History, Ideas, and Basic Philosophy. The Hundred Languages of Children: Reggio Emilia Approach to Childhood Education*, Norwood, N.J. Ablex Publishing Corporation.
- Rinaldi, C.(1993), *The Emergent Curriculum and Social Constructivism, The Hundred Language of Children: the Reggio Emilia Approach to Early Children Education*, Ablex Publishing Corporation.
- Rinaldi, C.(1998), *Construction of educational project. News Letter. Korea Reggio Children*; Seoul, Korea Reggio Study.
- Skrtic, T.M.(1991), *Behind Special Education: A Critical Analysis of Professional Culture and School Organization*, Denver, Colorado: Love Publishing Company.
- Skrtic, T.M.(1995), *Disability and Democracy: Reconstructing(Special) Education for Post-modernity*, Columbia University.

Wendy, A., and Anthony, F.R.(1994), "Cooperative Learning, Peer Tutoring, Peer Collaboration, and Peer Support in the REI," in

Anthony, F.R., O.S., and W.L. Freddie (Eds.), *Advance in Special Education*, Jainpress Inc.

The Journal of Eurasian Studies-Vol. 6, No. 1 · March 2009

Reggio Emilia Approach in Italy and Special Education

Mi-Suk Kim*

Baekseok University, Chungcheongnam-do, Korea

Received 1 February 2009; Final Updated 16 February 2009; Accepted 23 February 2009

Abstract

For last thirty years, special education has structurally evolved from separative education to integrate education and then finally to full integrate education. Such changes deliver the important message that no one should be a subject to discrimination and that everyone should get along each other on the ground that no one can interfere with the dignity of human beings.

Changes made on the special education so far originated from changes made on paradigms of social science and such changes made on paradigms of social science derived from the processes to solve social problems of human beings. Such transactions made on paradigms led education policies to be more open to public opinions and management methods for special education to focus more on enhancing qualities than ever. As a result, the position of special education evolved from being traditionally functional to being analytical and then finally to being humane. Moreover, the importance of educational support to discover and maximize potential abilities of individuals and allow everyone regardless of problems, whether it's mental or physical, has also been emphasized.

Therefore this research focused on discovering the ultimate educational alternative from the Reggio Emilia Approach used in Italy to adequately support everyone who is subject to special education, recalling upon mistakes made in previous special education programs. Reggio Emilia Approach started in a quite small town in Italy and successfully developed as a regional management system pursuing active interactions and communications between educators, children, parents and local societies. After countless repetitions of self-examinations and following improvements, the Reggio Emilia Approach achieved the honor to be selected as among top ten world education programs by Newsweek in 1991, and such reputation for values and effects of this education approach never seems to end soon.

The characteristics of the Reggio Emilia Approach are rotational activities of various mediums and project-based teaching methods replacing education processes, values. Educational ideas that are aimed heavily on the Reggio Emilia Approach, or value education methods, include subjective values, values earned from variation, values earned from participation, values earned from democracy, values earned from studying, as well as such outcomes of its educational processes as playing, enjoyment and feeling emotions. Moreover, the Reggio Emilia Approach considers children to be excellent and rightful individuals and puts great importance on understanding and listening to opinions of children. Project classes, which replace education

* Correspondin. Author Address: Professor, Department of Special Education, Division of Education, Baeseok University, 115, Anseo-dong, Dongnam-gu, Cheonan-si, Chungcheongnam-do, Korea, 330-704; E-mail: katakim@bu.ac.kr; Tel: +82-41-550-2463; Fax: +82-41-550-9089.

processes, lead thinking processes of children to be completed on the process of connecting relationships with others. The mass medium circulation activity is an important tool to expand thinking ability of children helping their understanding of matters. In addition to adopting this amazing education approach, basic principals such as educational choice, structural harmony among groups, forming interesting educational institutions, education aimed at building mutual relationships, enhancement and expansion of communication as well as successful formation of relationships were set up and have successfully been fulfilled so far.

The Reggio Emilia Approach has tried hard to discover practical alternative to pave the way for future education without traits of previous school education programs that were unnecessarily and traditionally regimental, and masterful. This education plans to pursue such ideal education that aims for achieving happiness and satisfaction from both students and teachers by recognizing respecting characteristics and diversities of ones who are subject to the program.

Considering educational problems related to contemporary special education, I realized there were common interests between problems of contemporary special education and problems the Reggio Emilia Approach tried to solve. Therefore, I concluded that such careful and detailed educational methods suggested by the Reggio Emilia Approach might be useful to people with physical and mental problems. According to this conclusion, I first suggested basic principles of special education in the context of the Reggio Emilia Approach, claimed revised version of contemporary juvenile views and educational views of special education by the Reggio Emilia Approach, searched for more appropriate educational alternatives following self-examinations over contemporary special education recalling upon project classes in the Reggio Emilia Approach which replace educational processes, and finally examined effects of contemporary special education when combined with the mass medium rotation activity, which are used to expand thinking process in the Reggio Emilia Approach.

It might seem that outcomes of this research have been released later than they were supposed to be since other Korean researchers already started studying the Reggio Emilia Approach around 20 years ago. However, this program has won enormous reputation among child education industries as well as children's art education industries which will eventually contribute to discover important keys to problems of contemporary special education programs.

Keywords: Reggio Emilia Approach; Educational Ideas; Project-based Teaching Methods; Rotational Activities of Various Mediums; Special Education; Full Integrated Education.